

令和7年度 福津市一斉防災訓練の結果について(報告)

1 訓練の参加状況等

(1) 必須訓練

人口・世帯数は令和7年10月末現在

年度	人口(人)	世帯数(世帯)	避難者数 (参加率)
令和6年度	69,115	30,500	9,258人 (13.39%)
令和7年度	69,458	30,939	10,333人 (14.87%)
比較	+343	+439	+1,075人 (+11.6%)

(2) 任意訓練

郷づくり、自治会実施分

年度	参加者数(人)	前年度比較
令和6年度	3,229	+1,222人 (+37.8%)
令和7年度	4,451	

(3) 郷づくり別の集計

(単位:人)

地域	勝浦	津屋崎	宮司	福間	福間南	神興	神興東	上西郷	計
必須	250	778	741	3,903	2,010	1,107	843	701	10,333
任意	173	410	280	1,164	678	507	889	350	4,451
人口	1,033	8,653	8,563	18,121	16,333	6,552	7,506	2,697	69,458

※ 地域により人口や地域性が異なるため、参加者数はあくまで指標のひとつ

(4) 市職員研修

年度	参加者数	前年度比較	訓練内容
令和6年度	72人	-3人 (-4%)	<ul style="list-style-type: none"> ■福津市災害図上訓練 ■防災研修(熊本県の風水害、地震対応などからの教訓) 講師 熊本県初代危機管理防災企画監(防災軍師) 有浦 隆 氏
令和7年度	53人	-19人 (-26.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ■災害対応の検証(災害対策本部員) ■福津市災害図上訓練 防災学習+ワークショップ型研修 「支援と受援を考える」～災害対応と制度の先を見据えて～ 講師 災害支援ふくおか広域ネットワーク 会長 平川文 氏 ■防災研修「地域での防災の取り組みについて」講師 九州大学大学院工学研究院附属アジア防災研究センター教授 博士(工学) 三谷 泰浩 氏

※ 災害図上訓練と防災研修の二部構成

(5) 学校等の訓練

年度	参加者数	前年度比較
令和6年度	6,425人	+172人 (+2.6%)
令和7年度	6,597人	

※ 小学校の児童引き渡し訓練の保護者の参加者数を含む。

学校等別の集計

学校名等	訓練概要	参加者数(人)		備考
		児童生徒等	保護者等	
上西郷小	防災学習 児童引渡し訓練	155	220	避難訓練と児童引渡し訓練
勝浦小	防災体験活動	87	—	避難訓練と地域の訓練への参加
津屋崎小	児童引渡し訓練	1,011	500	避難訓練と児童引渡し訓練
福間南小	防災学習 児童引渡し訓練	1,500	1,200	避難訓練と児童引渡し訓練
神興小	避難訓練	298	—	
神興東小	児童引渡し訓練	445	255	避難訓練と児童引渡し訓練
津屋崎中	防災イベント模擬 避難所訓練 動画視聴	486	—	各地域郷づくりの防災訓練等に参加
福間東中	避難訓練	440	—	11/8 中1なまズの郷へ避難 10/8 中2防災学習会(NHK) 11/8 中3避難所運営学習会 (県防災士)
合計		4,422	2,175	
			6,597	

2 訓練を通じての感想や意見

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○		○			電子掲示板や回覧版で事前に訓練の案内を実施したところ幅広い年齢層の住民が参加した。
○		○			掲示方法や場所の周知徹底が課題。本部への迅速な報告及び情報共有のため、電子化を検討する必要がある。課題として組によっては全く参加がなかった。
○	○				参加者が昨年より多く、通り堂住民の防災意識の高さを感じることができた。
○		○			昨年より参加者が大幅に増えた。防災無線が聞こえにくいという世帯があったので、有線放送で連呼する必要性を感じた。
	○				仕事で不参加の方も多くいましたが、災害にあったので訓練に対する意識が高かった。

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○	○		○		自治会加入世帯中半数以上が参加し防災への関心が高いと分かった。地域の高齢化問題を認識し、災害時の避難・誘導がスムーズにいか考えさせられた。
	○		○		避難された方のヘルメット着用が多く、防災意識の高さを感じた。
			○		少し寒かったが年配の方を含め、遠くからも避難できた。課題は、高齢化のため、地形的に坂道が多いので、天候不調の場合の行動を考える必要がある。
○	○				参加者数は横ばいだったが、自治会未加入者数名が訓練に参加し、自治会加入の申し入れがあった。
○	○				参加者が多かった。サイレンが鳴ると去年より素早く集まるなど、防災意識を強く感じた。
○		○			組長の声掛けや回覧文書を工夫した割には参加者数が伸びなかった。
			○		組ごとの点呼確認がスムーズにできず、実際の災害時の避難困難者等の安否確認に不安を感じた。
○	○		○		訓練は、交流及び安否確認の機会となっており、参加者数に反映されている。白タオル確認は組長同士が協力して行い避難世帯を把握することができた。前年度の組長にプラカードを持ってもらうことで共助の絆が強まっている。避難者をスムーズに集計できた。組長の高齢化により訓練の世話役が難しくなっている。避難経路が凸凹になっており、転倒の危険があるので、避難経路の確認が必要になっている。
			○	○	高齢化が進み、公民館に自主避難できない方の把握ができない状況なので、隣近所で協力し合い対処する。自治会での発電機等の備蓄を考えたい。
○			○		参加者は昨年と同程度だが高齢者の参加が少ない。高齢者の避難について、今後の自主防災組織の在り方を検討する必要があると考えた。各自自主避難や垂直避難の再確認をお願いした。
○					参加者が増えないので、いざというときの共助に結びつかないと思う。
			○		各組で所在地が広範囲なため、同一箇所で行う訓練に限界がある。避難場所の分散と安否確認を行う方法を勉強したい。
○	○				参加者が多かった。危険が身近に迫っていると感じる人が多いためか、防災への関心の高さを感じた。
	○		○		顔を合わせる良い機会になった。高齢者が来るとき近所の人が付き添ってくれていた。防災対策について様々な意見が出たので、区で共有していきたい。
			○		高齢者が多く、災害時は避難補助が難しい。
	○				災害が起きやすい地形の割に住民の防災意識はあまり高くない。あらゆる機会を通じて防災意識を高める措置が必要と感じた。

分類					主な感想・意見など
参加	意識	周知	避難	備蓄	
○	○				世代に偏りが多く高齢者が多かった。防災意識の向上が課題と思う。
○				○	8月の大雨もあり参加者が多かった。備蓄の備え(カセットコンロや薬、携帯燃料、ビニール袋大中小)を呼びかけた。
○					毎年参加者が少なくなっている。
	○		○		みんな迅速に行動し組長の報告もスムーズで避難者の集計も問題なく、防災意識の高さを感じた。
○	○				当区では自治会アプリ「結ネット」を導入しており、同アプリの「災害モード」を活用し、外出等で参加できない世帯の安否確認も実施し、実際の震災を想定した実効ある訓練となった。
○					想定以上の参加者だった。来年度もさらに多くの方に参加いただける内容を検討していきたい。
○			○		あらためて避難経路の確認ができた。参加してもらえるような取組が必要と感じた。他地区の参加状況やどういった取組をされているのか教えてほしい。

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
勝浦地域郷づくり	防災〇×クイズ、手作り防災グッズ展示 体験訓練:救命訓練、応急担架の作り方、水消火器訓練、煙道体験、揺れ体験、及び非常食炊き出しと試食	勝浦小	173	二次訓練も昨年と同様の内容であったが、地域参加者が減少したため、数は昨年度よりも減少した。防災非常食の調理や会場設営・運営を中学生ボランティア・市職員とで行い美味しいと評判になった。中学生ボランティアに任せることができたことは良かった。最後は小学生の引き渡し訓練で終了。
津屋崎地域郷づくり(岡の2、岡の3、新町、東町1、東町2新東区参加)	災害写真展示・防災備蓄品紹介・救急救命訓練・初期消火訓練・放水体験・模擬避難所体験	津屋崎中学校グラウンド	410	毎年同じような体験型訓練を実施しているため、新たな試みでカレー300食分を用意したが、関心が薄かった。中学3年生は下級生を指導しうまくまとめていた。小学6年生も見学した。中学校とは前もって協議してきたが当日うまくいかないところがあり、打ち合わせが十分とは言えなかった。消防署や消防団との打ち合わせは電話のみで、次回は会議の場が必要だと感じた。
宮司地区郷づくり(宮司7自治会合同)	地域合同訓練	宮司コミュニティセンター	202	消防団第2分団と第5分団の協力のもと、地域住民と中学生が模擬避難所運営で受付、救急、屋外テント設営、炊き出しに参加し、簡易担架訓練や民間施設を使った垂直避難を実施した。
星ヶ丘区	防災訓練講義	星ヶ丘公民館	78	スライド・動画(星ヶ丘50年の記録)を見て地震災害からの避難等の講義を受けた。続いて止血や水難救助のロープワークを中学生が実演した(中学生17人参加)。
上西郷地域郷づくり	「上西郷防災フェスタ」を開催	上西郷小学校	350	必須訓練後、上西郷小学校に移動。防災ゲーム、消防団模擬消火、防災関連ブース展示、自衛隊炊出し訓練等を実施した。
花見総区(花見1.2.3.4区)	応急手当講習会	福間中学校体育館	522	宗像消防本部署員による応急手当講習会を実施した。
大和1区福寿会(シニアクラブ)	防災講座・アルファ化米の配布等	大和公民館	13	”学ぼう！男女がともに歩むまちづくり講座”を同時に実施した。
西福間1区	安全確保行動の事前実施	各家庭	602	一斉防災訓練と家庭でもできる防護訓練の実施要領に基づき安全確保行動の事前実施を呼びかけ、ほぼ90%の世帯で取り組んだ。
緑町区	福間小への徒歩移動を実施	緑区自治公民館→福間小学校	27	水害、地震災害を想定した5ルートの避難を実施し、各班ごとの意見を集約し、より安全なルートを検証する。
四角区	水消火器、人工呼吸、AED訓練	白菊幼稚園グラウンド	200	日頃からの継続した訓練が重要だと感じた。
両谷区	消防士による防災講話、消火器取り扱い訓練、防災服の試着	両谷公民館	76	消防士による講話で、実際の火災現場での体験事例を交えた説明があり、参加者全員が真剣に耳を傾けていた。
光陽台1区・2区	1区テント設営訓練、消防士による消火器、応急手当訓練、防災倉庫資材、防災リュックの展示、DVD放映	光陽台第1公園、光陽台公民館(展示)	114	今後は、2区・3区でもテント設営体験が必要と意見が出た。消火器訓練は「ピノキオ」(ピンを抜く)・ノズルを持つ・距離を考える・押す)を合言葉に実施した。応急手当訓練では、血液感染への意識が薄いことに気づいた。1区・2区合同で実施したことで時間調整が難しい場面もあったが、協力体制はできた。展示では、各家庭で備える防災グッズへの関心が特に高かった。
光陽台3区	災害用備蓄品の確認、カセット式発電機の操作、非常持出リュックの展示	光陽台第4公園	12	発電機付属の電気コードや照明灯も一緒に保管する方がよいとの意見により、倉庫に移動した。

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
原町1区	防災カードゲーム「クロスロード」	原町公民館	28	災害時の状況を想定して対応力や判断力を養う訓練を行った。活発な意見交換が行われ、新たな気づきが多くあった。多様な立場、考え方があるので、判断、対応の難しさを実感した。
有弥の里1区	防災士の防災講話、簡易担架作成、防災○×クイズ	有弥の里西公園	110	講話は立ったまま聞いたため、もう少し短時間にまとめるようお願いすればよかった。地震に備えた防災講話については、11月末にあらためて時間をとって実施する予定。避難訓練は、今回限りではなく、定期的を実施していく事が望ましいと感じた。
有弥の里2区	80歳以上の高齢者及び身体障がい者のリストアップ及び戸別訪問	対象者の自宅	30	対象者の自宅を訪問し、防災パンフレットと粗品を配布したが、粗品は笛が最も人気であった。
日蒔野6区	安否確認メールの一斉配信、高齢者世帯への巡回訪問	自治会会員自宅	108	指定メールアドレスへ、氏名、住所、人数、緊急連絡先を返信してもらい、回答を収集した。今後返信数を増やす工夫が必要であると感じた。
手光区	防災学習	手光区自治公民館	21	はじめにふくつ防災士会による講演を聞き、グループ毎に防災ゲームを実施した。
東福間6区	徒歩訓練、非常糖食(菓子詰め合わせ)支給	東福間6区区域内	36	高齢化が進み、腰や膝の故障者が多く、任意訓練に参加できない人が多かった。
東福間8区	救助者がいる時の対処法のシミュレーション、手づくり防災グッズの作成	集会所横	30	雨や風、寒さを防ぎ、高齢者でも作成できるポンチョづくりが好評だった。
東福間9区	消防団6分団指導の下、水消火器による消火訓練	神小体育館前、神興幼稚園前	9	消火器の取り扱いを検証でき、有意義な訓練だった。子どもも積極的に訓練に参加していた。
東福間10区	防災士の講話	さくら公園	75	10区在住の防災士の講話を聴き、具体的かつ簡潔な内容で、今後役に立つ資料をいただいた。
東福間11区	1.心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)住民実演 2.AEDの使い方 3.止血法(圧迫止血) 4.喉に詰まらせた場合の対処法(背部叩打法・腹部突き上げ法) 5.マンション常設のAEDの使い方(実際にやってみせ)	福間ステーションガーデンのパーテイールームとロビー	25	約1時間の講習であったが、非常にわかり易かった。反応を見る方法で、眼(付近)を見るとわかり易いとの説明は初めて聞く内容だった。短い時間で喉のつまり、止血方法まで的確に指導。さらに、実際に設置されているAEDを取り出す方法をやって見せたのは皆さんも非常に収穫だったのではと感じています。
光陽台4区	初期消火訓練、放水消火訓練	光陽台6号公園	90	消防団第7・第8分団指導の下、水消火器による初期消火訓練、消防車を活用した放水消火体験を実施。日常生活での災害予防への意識づけができた。また放水体験には積極的な申し出が多く成果があった。
光陽台6区	緊急災害時の対応についてのチラシ配布、初期消火訓練、消防署による防災講話	光陽台6丁目公民館横公園	221	役員会や回覧で周知徹底した結果、参加者が非常に多く、広く草刈りをしておけばよかった。チラシを配布し緊急災害時の対応についての説明ができてよかったし、消防署員の説明がわかりやすく役立つ内容で有意義だった。

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
通り堂区	負傷者救護のための簡易担架の作成等	定礼公園	54	簡易担架の作成と共に、土砂災害警戒区域を確認し、防災についての基本的な心構え等について共有するなど大変有意義な訓練だった。
津丸区	救出救護訓練	津丸公民館前広場	41	簡易担架を作成し移動する行動を行うことによって防災の意識が高まっていた。
久末区	事前周知及び簡易担架作成体験	久末公民館前広場	36	有線放送で周知したので、避難場所への集合がスムーズで、9:00にはほとんどの人が集合が完了した。
八並区	救急救命講習	八並区公民館	45	消防署員によるAED、人工呼吸、簡易担架の作成の話を聞いた。人工呼吸は、高齢者には体力不足であること、簡易担架は毛布で簡単に作ることができることを確認した。
若木台1区	LINEによる役員への一斉通知と安否確認及び非常食配布訓練	若木台1号公園	74	LINEによる役員間の連絡はスピーディーかつ状況把握に最適である。郷づくりから協賛いただいたカロリーメイトが好評だった。
若木台2区	避難者台帳記帳訓練、非常食配布訓練等	わかば公園	191	大勢参加し、防災意識が強く感じられた。
若木台3区	消火器操作訓練、応急救護実技訓練、炊出し訓練	くるみ公民館	130	NPO法人セーバー風ジャパンを招き、高度な実技講習を受け効果大だった。青年部と子供10数名が参加し参加者の幅を深めた。反面、高齢者の参加が減り、参加しても短時間で中座する者も出たことが今後の課題
若木台4区	出前講座及び非常持出品の展示等	神興東小体育館	65	ふくつ防災士会の講座は避難所の役割と機能について興味深い話だったが、まだ自主防災組織で運営できる段階になく、ギャップを感じる人がいたのが課題。参加者が持参した非常持出品を展示し、興味深く見学していた。防災ナビまもるくんを周知した。
若木台5区	人命救助訓練	新幹線公園	96	福津消防署消防士と消防団員による止血方法、竹2本で担架づくり、心肺蘇生法、AED取り扱い方法について訓練を実施 初の試みに全員が真剣に参加した。年配者への配慮としてイスを用意したことも良かった。
若木台6区	避難困難者名簿作成及び非常食配布等	かいがら公園	61	事前に避難困難者等を確認し名簿作成したが情報が集まらず困った。高齢化が進み、高齢者の支援体制が必要だと感じた。
桜川区	出前講座	桜川公民館	25	ふくつ防災士会の講話は今後役に立つ内容であった。
三角区	消火訓練	三角公園	14	昨年度の指導者が不在のため、ほとんどの人が覚えてない、ホースが重くてできない等、有意義とは言えない内容だった。マニュアルを作ったら分かりやすいのではないかと思った。
あけぼの区	8月豪雨被害報告及び災害時の対処法の再確認	あけぼの1号公園	57	あけぼの備蓄計画の内容を説明し、災害時の備蓄品の配布手順を再確認した。消費期限が近い備蓄品の配布をし、少しでも参加者の維持に努めた。
任意訓練参加者数			4,451	